

認定NPO法人アンケート

法人名：認定NPO法人くまがや小麦の会

担当者名：日向 美津江

Q1 現在活動している主な事業について教えてください。

- ① 熊谷産小麦の普及活動
市民活動行事への参加、当会の製品の販売
熊谷産小麦を使用した製品の製造講習会の開催
- ② 当会情報誌「タウンタウン小麦」の発行年間3回実施 新聞折込(熊谷中心部)会員郵送、行政、各種団体、施設、商店等に郵送、配置
くまがや小麦の会の活動の報告、これからの活動予定案内
熊谷の文化活動の推進に協力する。紹介コーナーを設けて、文化活動の応援
- ③ 熊谷市県立高校8校による「スイーツ文化祭」開催 11月3日に熊谷市八木橋百貨店に於いて各校の熊谷産小麦を使用した製品開発を当会と協力して行い、各校の学生が店頭で顧客に販売する。各校の卒業生が来場して現役高校生と各校のオリジナル製品を媒介として交流を創る。
- ④ 東日本大震災で被災した熊谷と縁の深い、気仙沼小学校へ会員から募金を集めて、寄付金を届けている。9年間通ったところで、コロナ禍に遭遇してしまい訪問できないでいる。
- ⑤ 文化活動の推進

Q2 認定を取得しようと思った理由を教えてください。

- ① 税制が変わりこれまで国税局が行っていた制度が県に移管され、寄付金の税額控除の認定が出来る様になった。熊谷に県庁の出先機関として「北部地域振興センター」があり、NPO法人立ち上げの時、お世話になり、情報の共有が進んでいた。小麦の会の会員が200名近く入会していたので、絶対評価の認定が取れる条件があった。
会員の賛助会費を活動の資金に据えていたので、賛助会員を長期に渡り、確保しなければならない。賛助会員の会費負担を軽減させる為に、認定NPO法人を取得すれば、賛助会員が税制の軽減を受けられる。
賛助会費の納入期間が長くなると、お納め頂く会員の中には疲れてくる方も出てくるので、認定NPO法人の持つ税額軽減措置を使いたかった。

Q3 認定取得までに苦労された点をお聞かせください。

- ① 絶対条件による認定NPO法人取得にチャレンジしたので、3000円以上100名の入会が必須条件となる。NPO法人の活動で賛助会員の会費は3000円以上であったことが認定NPO法人に向う好条件であった。

② 会員の確保は、絶えず行っていかななくてはならない。比較的苦労は少なかったと思う。

Q4 認定を取得されたことで法人の運営や活動に何か変化はありましたか。

① 社会的信用性が高まったと感じている。

助成金を取得する際、選考に認定NPO法人のお墨付きが功を奏しているのではないかと感じる。

② 会員が会に誇りを持ってくれた。各人が活動に認定としての見られ方、見せ方を意識してくれた。

③ 会員の獲得もやりやすくなった。

④ 活動の地域が広まった。

⑤ 金融機関も協力を提案してくれるので、活動を展開して行ける可能性を感じる。

Q5 多くの方からご支援をいただくためにどんな工夫をされていますか。

① 情報誌を定期的に発行して、会員に会費を頂いているので、会の活動報告義務があると考え「タウンタウン小麦」を会員に郵送して、会の活動報告を行っている。

② 熊谷市内、もしくは近郊の市民活動に参加して、認定NPO法人くまがや小麦の会をアピールしている。

③ 熊谷市出身のアーティストの発表の場の創設を心掛けている。

「タウンタウン小麦」にはアーティストの活動予定を掲載して集客に協力している。コーナーを決めて文化活動を告知している。

④ 小麦の会の活動原資は会員から頂く会費にあるという感謝の気持ちを忘れないようにしている。民間活力で活動できる事を重視して活動している。

⑤ 助成金を頂いた時は会員に「タウンタウン小麦」を通じて報告して、独りよがりではなく、認められている事もアピールしている。官民共働体が認定NPO法人の在り方と考えている。

Q6 これから認定等の取得を目指すNPO法人へのアドバイスをお願いします。

① 人とひとの繋がりを大切にして、多くの人から助成して頂ける活動を心掛ける。

② 官民の共働体がNPO法人と思うので、官と民の間で民に属するNPO法人が受け持った方がいい事業を考えている団体がNPO法人になってくれると、官民共働体が効率よく動くと考える

③ 官が実施すると、人件費を含めて大きくなってしまような事業をNPO法人が支えていて官の出費を抑えて、税金の軽減に繋げていく。

(記入日:令和4年 2 月 24 日)